『筑波大学技術報告』No.36の発刊によせて

本学では、技術職員の業績や活躍を広く学内外に紹介すること等を目的として、『筑波大学技術報告』を長年継続して発刊してきており、本年度はNo.36が発刊される運びとなりました。

本報告書は「第15回筑波大学技術職員技術発表会」(平成28年3月9日開催)における発表論文等及び技術職員からの投稿論文により構成されております。これは、教育・研究支援活動に携わる多忙な日常業務の中で、本学の技術職員が創意工夫をこらした、長時間にわたる研鑽や努力の成果報告です。

本発表会は、技術職員の全学的な活動の一環として定着し、準備段階において、技術発表会への積極的な参加・発表の奨励・啓発や学外者の参加を呼びかける広報活動等、今後のあり方の議論を含めて、技術発表会の開催や運営に関して大きな努力が払われてきています。本報告書をご覧いただけるとお分かりの通り今回は『研究』にやや偏った印象があります。技術職員の日々の業績や活躍を広く紹介するという趣旨から考えると、『教育』や『社会貢献』など幅広く活動されている実態がわかるようになると良いかなと思います。

技術職員の職務は実験科学等の教育・研究支援活動のみならず、教材の作成、教育・研究機器の設置・維持管理、資料の整理、さらにIT関連技術等の広い範囲に拡がってきています。技術職員制度の将来設計と職場環境等改善に向けて、平成20年から検討が行われています。新たな技術職員組織体制の在り方について検討するために全学的に設置された「技術職員等の在り方検討タスクフォース」の第Ⅰ期では、全学的な研究基盤整備要因についての整備方針が打ち出され、環境安全管理、研究機器、情報の3分野について、全学的に管理し継承すべき技術（職員）として位置付けました。同第Ⅱ期では研究力向上のための技術職員の活用や残すべき技術の整理を課題として取り組みました。少子化、グローバル化、研究力強化など大学を取り巻く様々な課題の中で、また、大学全体の人件費の動向も見極めながら、将来設計を進めなければなりません。

本報告書の刊行により、本学技術職員の業績を広く学内外に紹介し、各方面より忌憚のない御意見や、御指導、御助言、激励等を頂くことができればと願っています。技術職員の育成と技術力を一層向上させるために、各方面の御支援をよろしくお願い致します。

平成 28 年 3 月　筑波大学　副学長・理事(研究担当)　三明康郎